

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 75	福山市立竹尋小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月10日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校とも工夫した取組がなされている。児童生徒の学力向上への取組やよりよい生活習慣づくりへのアプローチについては、今度とも進めてほしい。 教職員・保護者・地域が協働して児童生徒の育成に取り組んでいきたい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に向かう意欲や、努力する態度が育ち、学力は向上してきている。更に言語活動を充実させ、表現力を育成する必要がある。 決まった活動は素直に取り組むことができる。しかし、自ら挑戦したり、人とかかわりながらやり遂げたりすることには、やや課題がある。 	<p>育成する 資質・能力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として 統一した取組等</p>	<p>課題解決力(思考力・判断力・表現力) 主体性・協働性</p> <p>「なりたい自分」を目指し、自立・協働し、社会貢献への意欲をもつ。</p> <p>【学力向上部】探究型の学びづくりとその他の学力向上に向けての取組の交流を行う。</p> <p>【生徒指導部】小中及び小小連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。児童生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。</p> <p>【健康・体力推進部】児童生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。</p>
--	--	---	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自ら気づき、考え、行動する子どもの育成</p>
--

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学びに向かう姿勢や学習習慣は少しずつ定着してきており、基礎学力も徐々に定着しつつある。(単元テスト70%未満児童 国語8.5%,算数15.9%) ○総合的な学習の時間や生活科で地域のよさに触れ、故郷への愛着を高めつつある。「地域の良さや課題に気付き、解決しようとした」88.1% ●学年単学級で固定化された学級集団で生活しているため、自分の良さを発揮する機会が限られ、自分の思いや考えを豊かに表現する力が弱い。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「問い」と「言語活動」を中心に子どもが主体的に学べる授業づくりを行っている。 ○個別最適な学びに取り組み、児童が学びを選択したり、学び方を振り返ったりすることで、主体的な学習者を育てる。 ●「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業展開にする必要がある。
--

育成する 資質・能力	課題解決力 (思考力・判断力・表現力)	主・協 主体性・協働性
めざす 子ども像	<p>低</p> <p>問いを自分事として粘り強く考えことができる。</p> <p>中</p> <p>対話の中から問いを設定し、よりよい解決方法を進んで実行することができる。</p> <p>高</p> <p>「なりたい自分」を見つけ、自ら課題を見出し、よりよい解決方法を考えて実行し、次の学習につなげることができる。</p>	<p>・学び合う場で、自分の考えをもち相手に伝えることができる。</p> <p>・相手の思いや考えを受け止めることができる。</p> <p>自分の考えをもち、相手に伝わるように表現したり、相手の意見を受け入れたりしながら、友達と協働することができる。</p> <p>「なりたい自分」を目指す中で、自ら自他のよさや可能性を尊重し合おうとしている。</p>
研究	<p>テーマ</p> <p>「自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成」～問いを生かした授業づくり～</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して学び続ける問いの工夫や単元構想 ・児童自ら課題を発見、解決方法を共有し、協働的、対話的に学びが進む授業づくり 	
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が明確なねらいをもち、自己の学びに関連付けて振り返る授業 ・「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業 ・問いを追究し、児童が主体的に学び、表現する授業 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする意欲を育み、力を付ける。	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学びの選択や見直しを行い、学び続ける学習者を育成する。 自分の思いや考えを相手意識・目的意識をもって表現する力と基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を選択できるようにし、個に応じた指導を行う。そのために、児童の理解度の実態を把握する。 自分の考えをまとめる時間を設け、教科の用語を使うなど、より詳しく表現できるようにする。 「問い」の設定を行い、学ぶ目的を意識づけ、活用させながら基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ質問項目1「自分にあった教え方、教材、学習時間」肯定的評価90%以上、国語16算数15「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫」の肯定的評価75%以上(全学年で実施) 国語科・算数科の単元テストにおいて、70%未満の児童が15%未満 								
1	自他を認め、相手を思いやる心を育む。		新規	<ul style="list-style-type: none"> 自他のよさを認め合い、互いを尊重した円滑なコミュニケーションができる集団づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が互いに自分たちのあいさつを振り返る場を設ける。 児童会活動や学級活動を通して、あいさつ向上について考える機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつカードのレベル3到達児童を30人以上にする。 								
6	自らの目標に向かってよりよく生きる力を向上させる。		継続	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣と主体的な体力づくりにより体力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発信で全校遊びを月1回行い、体育の時間以外で運動機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの96項目のうち全国平均以上の項目が50%以上 								

				<ul style="list-style-type: none"> ○児童会や委員会でメディアに関わるルール決めや啓発活動を行う。 ○特別活動で家庭でのメディア外の過ごし方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○メディア使用時間の自己目標を達成した児童の割合を70%以上 														
4	教職員の働きがいと力量向上を図るとともに、保護者・地域と協働して教育活動を推進する活力ある学校風土を醸成する。	見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働きがいを高めるとともに業務改善を推進し、保護者・地域と協働した教育活動の充実と時間外在校時間の縮減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○還元研修・ミニ研修（任意）等教職員の関心や強みを生かした研修を行う。 ○各部において行事や活動の目的を再考して精選する。 ○保護者・地域と連携した教育活動（ボランティア活用・行事等）を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「仕事に意義ややりがいを感じている」100% ○時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員85%以内 ○「保護者・地域の協力により教育活動が充実している」肯定的回答90%以上 														

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。

